



森とアースへの
eco
プロジェクト

森とアースへのECO-プロジェクト
令和6年度 実施報告書



天星製油株式会社

全国オイルリサイクル協同組合
森とアースへのECO-プロジェクト推進チーム

廃油リサイクルから森づくりへ

地球は今、かつてないほどの急激な自然環境の変化に直面しています。ハリケーン、局所的な暴風雨、気温や海水温の異常な上昇、動植物類の生息域の変化、森林面積の減少、海水面の上昇。地球温暖化は間違いないと思われますが、森林の伐採、生物の乱獲、化学物質による環境汚染など、人間の経済活動による影響についても、何をしなければならないかを私たちは真剣に考え行動しなければなりません。

弊社は、廃油リサイクルの専門家として約60年間、資源の有効利用と環境保全に尽くしてまいりました。廃油をリサイクルして燃料化することで、トータルでの二酸化炭素の排出を削減していることに脚光を浴びるようになり、私たちの価値が再認識されるようになってきたことは光栄に思うと同時に時代の変化を感じるところです。

本プロジェクト「森とアースへのECO-プロジェクト」で社会貢献の一環として平成30年度より参加し、弊社の廃油リサイクル事業の収益の一部を、事務局を担う公益財団法人北海道環境財団に寄付をすることで、全国各地の森づくりを支援してまいりました。自然環境の最上流に対する働きかけにより、豊かな森林の涵養、林業の機能維持が、木々による二酸化炭素の吸収のみならず、森林、河川から海につながる生態系の維持、国土の保全につながることに、ささやかながら協力させていただきたいと考えています。また、脱炭素社会実現に向けた国内外の動きを見据え、森づくり等を通して生じる温室効果ガス吸収量を活用したカーボン・オフセットを実施して、弊社事業活動の脱炭素化にも努めました。

関係各位におかれましても、何卒、ご理解いただくとともに、活動の輪が広がっていくことを祈念しております。

令和7年3月吉日

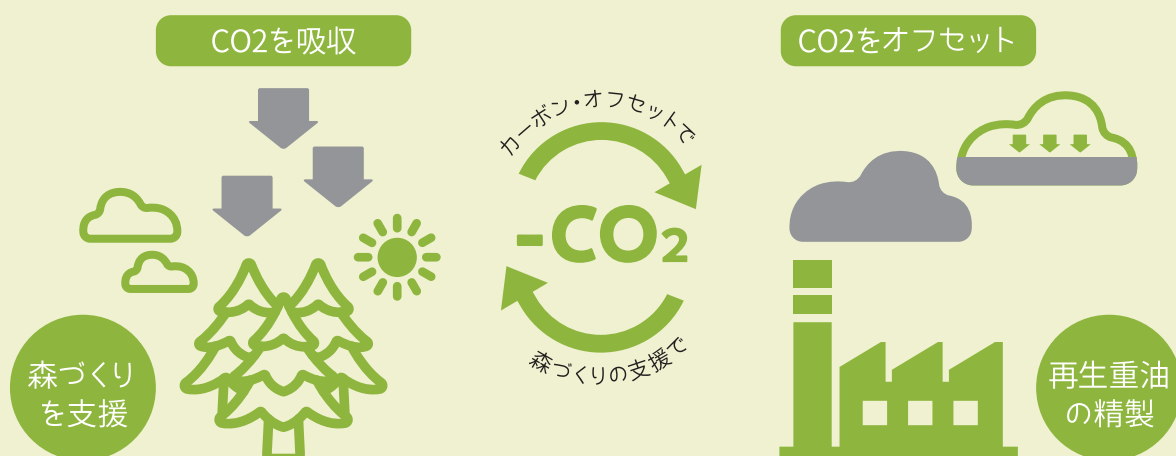
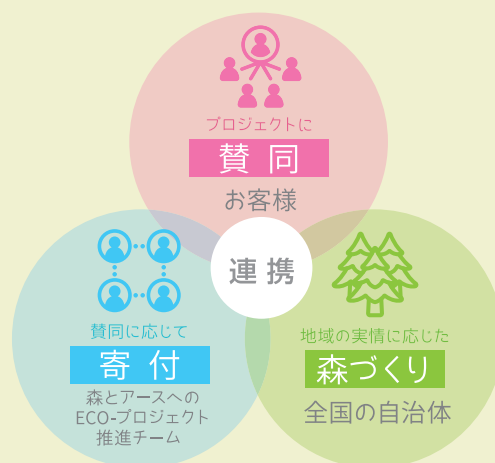
天星製油株式会社
代表取締役 鈴木宏政

森とアースへのECO-プロジェクト概要

廃油の適正処理とリサイクル事業に取り組む企業で構成する「全国オイルリサイクル協同組合 森とアースへのECO-プロジェクト推進チーム」は、日本各地の森づくりと地球温暖化防止に資する社会貢献事業として、平成28年から「森とアースへのECO-プロジェクト」を展開しています。

本プロジェクトを「お客様とともに取り組む社会貢献活動」として位置づけ、お客様のご賛同のもと、各社が廃油リサイクル事業の収益の一部を拠出し、脱炭素社会の実現に向けて先進的に取り組む全国各地の自治体と連携して森林保全活動を実施しました。また、森づくりの結果等から生じるCO₂吸収量を活用して廃油リサイクル事業等において排出されるCO₂のオフセットにも取り組みました。

2050年に向けた脱炭素社会の実現を目指して、廃油リサイクル等を通じた循環型社会構築への貢献に加えて、本プロジェクトを通じた森林保全活動の支援や、カーボン・オフセットへの取り組みにより、脱炭素社会構築への貢献に努めてまいります。



日本の森づくりと脱炭素社会の構築に貢献



のしろし 秋田県能代市

本市は秋田県の北西部に位置し、北に白神山地、東に奥羽山脈があり、市の中央を米代川が流れ日本海に注いでいます。平成18年3月に、旧能代市と旧二ツ井町の合併により誕生した人口約5万人の市です。東西約30km、南北約35km、総面積は427km²で、秋田県の面積の3.7%を占めています。



豊かな自然に恵まれ、日本海に面する海岸一帯には、面積約760haの海岸砂防林「風の松原」があり、生活環境を保全し、市民からも親しまれる憩いの場となっています。また、日本一高い天然秋田杉を含む仁鮎水沢スギ希少個体群保護林などもあります。また、米代川流域は、古くから天然秋田杉の産地として知られており、木材の加工事業者の数や加工技術の高さから、かつて「東洋一の木都」と呼ばれ、古くから林業・木材産業と共に発展してきた地域です。その歴史は今も根付いており、基幹産業の一つとしての木材産業や木材に関する施設・機関等も多くあります。

市の将来像に掲げている「“わ”のまち能代」には、人と人との“和”、地域資源で活力を生む“環”、未来へつなぐ安心の“輪”、これらの思いを込めています。また、まちづくりの基本理念に「幸福共創」を掲げています。この「幸福共創」という言葉には、“こころ”“からだ”“もの”の3つの豊かさを実感できるふるさと能代を、市民の皆様とともに目指していきたいという思いが込められています。

秋田県能代市の森づくり



本市の森林面積は約2万5千haとなっており総土地面積の約6割を占めています。また、民有林約1万6千haのうち、約1万haは杉人工林で、そのほとんどが原木生産に適した林分であり、成熟した杉資源の宝庫となっています。

一方で、小規模林家が多く、森林所有者の高齢化や地域の過疎化に伴い、所有者不明や森林管理が十分に行われていないなどの課題も抱えています。そのため、森林環境譲与税を活用し、森林の所有者や境界の調査を進めるとともに、意欲ある森林所有者・森林組合・林業事業体への施業等の委託による森林の集約化と施業の共同化を推進しています。また、林業の生産基盤を強化するため、林業専用道等の路網整備も積極的に進めています。

森とアースへのECOプロジェクト 施業実績



- 【施業内容】 間伐、枝打
- 【場 所】 能代市母体地区
- 【面 積】 10.45ha
- 【施業時期】 令和6年8月～11月



秋田県能代市長 齊藤 滋宣

能代市長からのメッセージ

この度は、能代市の森林施策に対し、「森とアースへのECOプロジェクト」によりますご寄付を賜りまして、誠にありがとうございます。皆様方の温かいご支援に心より厚くお礼申し上げます。

近年、地球環境や社会・経済への危機意識を背景として、持続可能な開発目標（SDGs）への関心が高まり、森林・林業・木材利用に関わる活動に注目が集まっています。

本市においても、脱炭素社会の達成に貢献すべく、森林の持つ多面的な機能の発揮とともに、地域の林業・木材産業の活性化・振興につながるよう、さらなる豊かな森づくりに取り組んでまいります。

今後とも能代市をよろしくお願い申し上げます。



みなみ そうま し 福島県南相馬市

南相馬市は、福島県浜通り地方の北部に位置し、温暖な気候と山・川・海の豊かな自然に恵まれたまちです。平成18年1月、1市2町の合併により誕生し、面積398.58平方キロメートルに約59,000人(令和2年国勢調査結果)が暮らしています。

毎年5月には、一千有余年の歴史と伝統を誇る祭「相馬野馬追」の舞台となります。国の重要無形民俗文化財に指定されるこの祭は、平将門が下総国(千葉県北西部)に野馬を放ち、敵兵に見立てて軍事訓練を行ったのが始まりと伝えられています。甲冑に身を固めた約400騎もの騎馬武者が一堂に集結する様は、まさに現代に甦る戦国絵巻そのものです。また、一年を通じてサーフィンに適した波に恵まれた海岸は、日本有数のサーフスポットとして知られています。全日本サーフィン選手権大会や世界プロサーフィン大会などの開催地にも選ばれ、多くのサーファーに親しまれています。

14年前、当市は東日本大震災と原発事故により大きな被害を受けました。その後も相次ぐ自然災害やコロナ禍など様々な困難に見舞われましたが、そのたびに寄せられた多くのご支援により復興に向けた歩みを一歩ずつ進めています。そうした中、未来のまちの姿として目標に掲げているのが、「100年のまちづくり～家族や友人とともに暮らすまち～」です。子や孫たちが故郷に誇りを持ち、この地で何代も営みが続く、そんなまちづくりに取り組んでいます。



福島県南相馬市の森づくり



南相馬市は、面積の54.4%の森林を有しています。かつてはこの豊かな森林資源を生かして林業が盛んでしたが、木材需要の低迷や原発事故の影響などを背景に、現在は著しく停滞している状況です。また、震災前の沿岸部は、青々とした松林が続く美しい風景が広がっていましたが、巨大津波がすべてを押し流し、多くの集落が甚大な被害を受けました。

市では、新たな海岸防災林を造成するため、毎年6月に鎮魂復興市民植樹祭を行い、瓦礫を活用した高盛り土に地域在来の常緑広葉樹を植林しています。令和7年度で第13回を迎えるこの植樹祭には、毎年全国各地からの多くの皆様にご参加いただき、未来へつながる鎮守の森をつくる活動を行っております。

森とアースへのECO-プロジェクト 施業実績



- 【施業内容】 第13回南相馬市鎮魂復興市民植樹祭
- 【場 所】 南相馬市原町区北泉地内
- 【面 積】 0.36ha
- 【施業時期】 令和7年6月



福島県南相馬市長 門馬 和夫

南相馬市長からのメッセージ

このたび「第13回南相馬市鎮魂復興市民植樹祭」に対し、「森とアースへのECO-プロジェクト」のご支援を賜りますこと、心より感謝申し上げます。

この植樹祭は、津波犠牲者の慰霊、震災の記憶や教訓を継承する場として開催しております。地域在来の広葉樹を密植し、自然に近い状態を維持することによって、自然災害や火災などから市民の生命を守る森づくりを目指すもので、これまでに2万1,000人の方々の手で合計21万4,000本が植栽されました。

こうした活動を通じ、豊かな緑を後世へと繋げてまいり所存ですので、引き続きお力添えいただきますようお願いいたします。



いち はら し 千葉県市原市

市原市は、千葉県のほぼ中央に位置し、都心から50km圏内、東京駅、羽田・成田両空港まで約60分という立地にあります。県内では最も広い市域を有し、エリアによって見せる表情が異なるのが魅力の一つです。市北部には石油化学工業をはじめとする大手企業が多数進出し、コンビナート群が形成・発展しました。このコンビナート群は「工場夜景」を楽しめる観光資源にもなっています。市南部は養老渓谷に代表される水と緑豊かな里山の風景が広がり、この里山を背景に小湊鐵道が走る姿は多くの人々を惹きつけています。

さらに2020年1月、養老川流域田淵の地層が地磁気逆転現象を最もよく観察できる場所として、国際的な基準地として認定されたことで、約77万年前から始まる時代名「チバニアン」が誕生し、注目を集めています。また市原市は、歴史遺産も豊富で、市原歴史博物館では、展示や体験を通して地域の歴史や文化を学ぶことができます。

市内には多くの公園やレクリエーション施設があり、家族連れや観光客にとっても魅力的なスポットが点在し、自然と都市が調和した魅力的な地域であり、訪れる人々に多様な体験を提供しています。また、四季折々の自然を楽しむことができる場所でもあり、春には桜が咲き誇り、秋には紅葉が美しい風景を見せます。市内のイベントも多彩で、地域の祭りや文化イベントが年間を通じて開催され、地元の人々や観光客を楽しませています。



千葉県市原市の森づくり



千葉県はサンプスギという良質な性質をもつ品種が有名で、市原市においてもサンプスギの林が数多くありますが、「溝腐病」という幹を腐らせる病気による被害が広がっており、木材の価値が著しく低下しています。また、林家の高齢化や担い手不足などの課題と相まって、林業経営は一段と厳しい状況にあり、手入れの行き届かない森林が増えております。

さらに、令和元年9月に千葉県を通過した房総半島台風により、数多くの森林が風倒被害を受けており、道路や送配電線などへ影響を与える事態が発生しただけでなく、森林の持つ多面的機能が低下しました。このことから、重要インフラ施設等への災害を未然に防ぎつつ、森林の機能回復を図る森林整備を進めております。

森とアースへのECO-プロジェクト 施業実績



- 【施業内容】 伐採(特殊地拵え)
- 【場 所】 市原市金剛地
- 【面 積】 0.6ha
- 【施業時期】 令和6年9月～令和7年1月



千葉県市原市長 小出 譲治

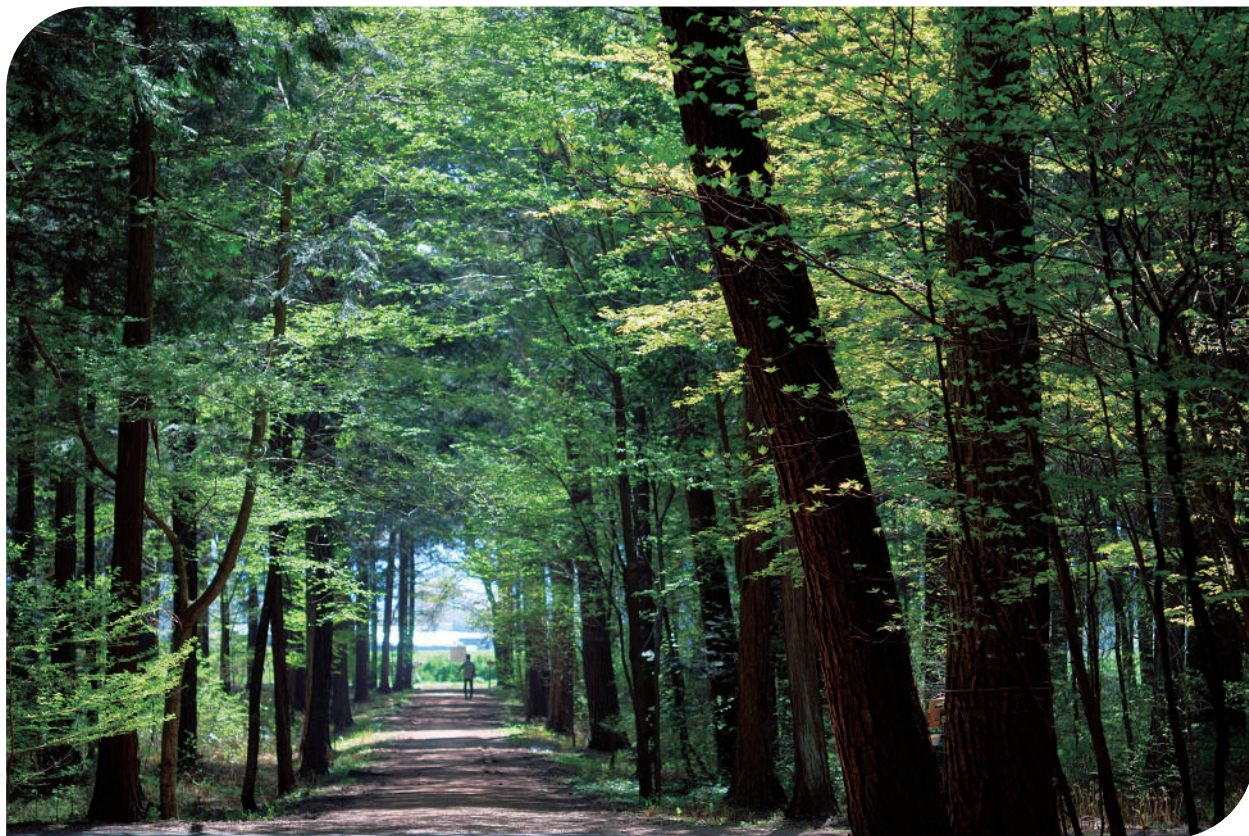
市原市長からのメッセージ

市原市の森林施策に対しご支援をいただき、誠にありがとうございます。

森林は、環境保全や防災、水の浄化など、様々な場面で私たちの暮らしを支えており、この機能を活かすためには、森林の計画的な伐採や人材育成等の森林整備を促進する必要があります。

市では担い手育成のための様々な施策や、効率的な森林整備について検討しており、森林の機能を取り戻す施策をこれまで以上に進めていく所存であります。

今後も市原市をよろしくお願い申し上げます。



みなみ　みのわ　むら

長野県南箕輪村

南箕輪村は、西に中央アルプス連峰の経ヶ岳・駒ヶ岳、東に南アルプス連峰の仙丈ヶ岳・東駒ヶ岳を望み、伊那谷の中で最も広い平地の中心に位置しています。村の面積は40.99㎢ですが、そのほぼ半分は飛び地の山林であり、日本200名山に選ばれた経ヶ岳を有しています。

緑濃い田園と畑作地帯が広がり、緑豊かな自然環境と暮らしやすい気候風土のもと、農・工・商・住宅地が調和のとれた発展を続けています。また、村内には保育園、小学校、中学校、高等学校、短期大学校、国立の信州大学までの教育機関があり、全国的に見ても際立って充実しており、非常に恵まれた環境となっています。

村は、明治8年に誕生し、その後の150年間は合併や分離が一度もなく、平成の大合併時にも自立の道を選択し、令和7年2月18日に村政150周年を迎えます。南箕輪村の西部に位置する大芝高原は、100年以上前から先人たちが後世のために森を育て、守ってきた大切な場所であり、現在では全国屈指のアカマツの平地林となっています。村政150周年のキャッチフレーズである「150年の人と木　未来へつなぐ幸せなひととき」には育てた木を大切に使い、人と人とが手を取り合ってこれから先の未来も豊かに、そして幸せなひとときを生み出せるようにとの願いが込められています。50年後、南箕輪村が200周年を迎える時も住民の皆さんが幸せでいられる南箕輪村であるように、「人と人」、「人と自然」がつながる村を目指していきます。



長野県南箕輪村の森づくり



大芝高原は、南箕輪村の村木であるアカマツが壮観を成す全国でも稀な平地林であり、多くの人たちが日常的にウォーキング等をしており、保健・レクリエーションとして利用されている特徴があります。しかし、大芝高原のシンボルであったアカマツは、松くい虫の被害拡大と遷移の進行によって衰退しており、このままでは枯損木の倒木や落枝による被害を発生させてしまう可能性が危惧されています。

こうした現状から村民主体の検討により「大芝高原森林づくり実施計画」を策定しました。利用者のみなさんの安全確保を最優先として、施設等の利用状況から優先度を決めて整備を実施し、村民や利用者のニーズに合った「多様な森」を目指した森づくりに取り組んでいます。



長野県南箕輪村長 藤城 栄文

南箕輪村長からのメッセージ

このたびは南箕輪村の森林施策に対し、「森とアースへのECOプロジェクト」によりご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

当村では、村民憩いの場であり、保健的機能や文化的機能、教育的機能を有する「大芝高原」の新たな森林づくりに取り組んでおります。100年以上前から先人たちが育て、守ってきた大切な大芝高原の森林を、未来の子どもたちへつないでいくために活用させていただきます。

森とアースへのECOプロジェクト 施業実績



- 【施業内容】 植樹
- 【場 所】 南箕輪村大芝
- 【面 積】 約1ha
- 【施業時期】 令和7年3月



おお だい ちょう 三重県大台町

大台町は、三重県の中南勢部に位置し、町内全域が『大台ヶ原・大峯山・大杉谷ユネスコエコパーク』に登録された自然豊かな町です。面積は362.86km²と三重県内の町では最大で、森林が占める割合も93%と県内一です。気候は、南海型気候区に属し比較的温暖で、年間降水量は3,687mm(過去10年間平均)で、上流域では年間5,000mmに達することもあり、日本でも有数の多雨地帯です。



町の中央を流れる一級河川宮川は、日出ヶ岳を有する大台ヶ原を源とし、その源流部は『吉野熊野国立公園』に指定され、『大杉谷』は国の天然保護区域でもあり、西の黒部、近畿の秘境とも呼ばれ、黒部峡谷とともに日本三大渓谷、日本の秘境百選の一つに数えられています。古くは伊勢神宮の式年遷宮用木材を切り出す「御杣山(みそまやま)」として、宮川を利用し木材を伊勢へ流送していました。

組織的な森林開発が進んだこの地域も、近年は木材需要の低迷、過疎化や高齢化が進み、未整備森林の増加や林業従事者の減少が課題となっています。これまで受け継がれてきた資源や技術と併せて、新しい発想と技術、創意工夫により、豊かな資源を活用し、次なる世代へ幸せな暮らしを引き継ぎ、『ユネスコエコパークのまち大台町』にふさわしい豊かな自然を守りながら、「住んでよかった」「ずっと住み続けたい」と思える、自然と人が共生する持続可能なまちづくりに取り組んでいます。

三重県大台町の森づくり



大台町の基幹産業である林業を発展させるための基盤整備を継続的に実施していますが、防災減災対策や水源涵養機能および生物多様性の保全を目的に、従来の単一的にスギ、ヒノキを植栽する林業から、その森林の立地条件にあった樹種を植栽する多様性のある森づくりを地域とともに進め、適地適木理論に基づいた森づくりを行っています。

少しでも森林所有者へ収益を還元するため、木材の売上だけでなく森林から採取できる新たな中間林産物として、アロマ製品や燻製など新たな収入源の確保も模索しています。また、大台町では町有林において、森林が持つ二酸化炭素吸収能力を活かしたJ-クレジット制度によるカーボンオフセットを活用し、植樹活動を行うなど、自然との共生を目指した取組を推進しています。

森とアースへのECOプロジェクト 施業実績



- 【施業内容】 間伐、下刈り
- 【場 所】 大台町神滝地内、菌地内
- 【面 積】 約11ha
- 【施業時期】 令和6年5月～9月

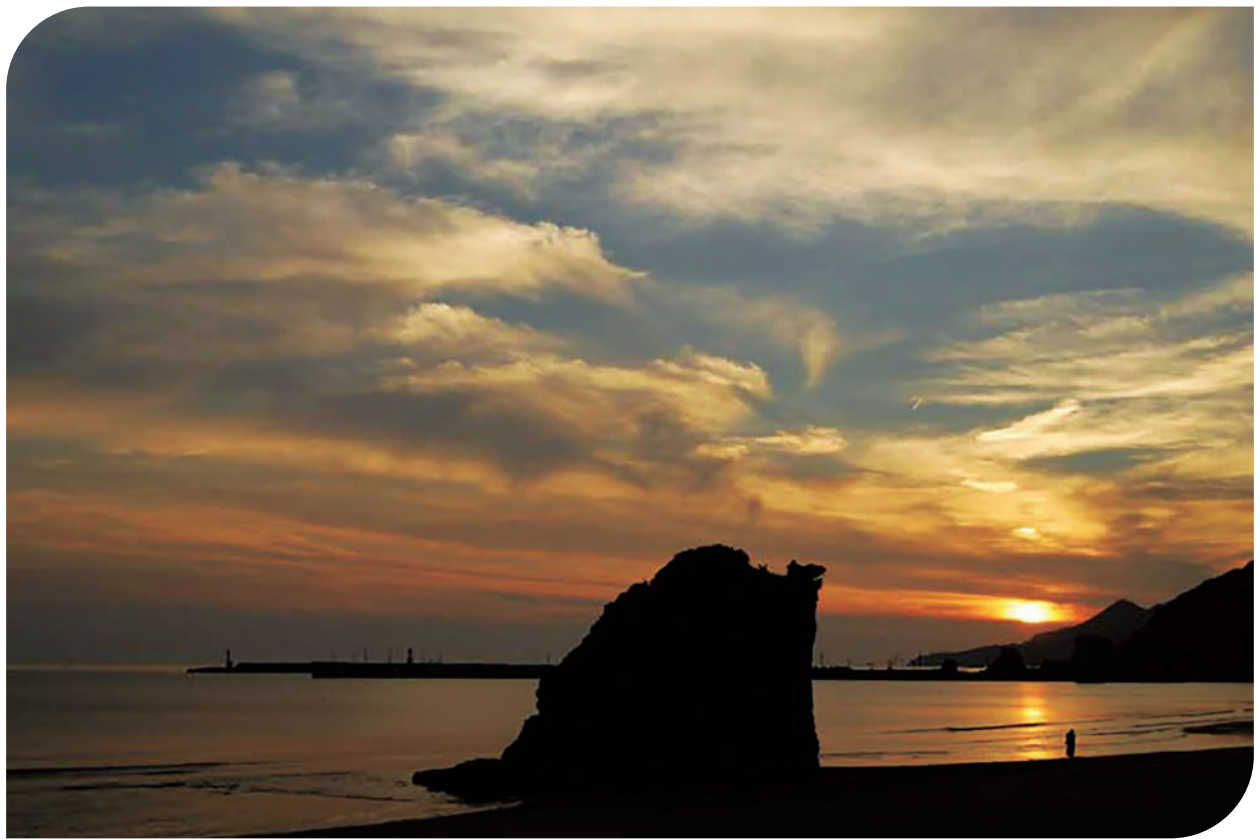


三重県大台町長 大森 正信

大台町長からのメッセージ

このたびは大台町の林業振興に多大なご寄付を賜り心より感謝申し上げます。いただきました暖かいご支援は、町の森林保全のために活用させていただきます。

森林は地球環境保全と地域経済の発展に欠かせない存在です。大台町では、基幹産業である林業の集約化や作業道開設といった基盤整備、新規林業従事者の育成や支援などによる人材確保に努め、持続可能な林業を目指し、豊かな森林資源を未来へ繋いでいく取り組みをこれからも進めてまいりたいと考えています。



い ず も し 島根県出雲市

出雲市は島根県の東部に位置し、島根半島、中央部は出雲平野、南部は中国山地で構成されています。東西約30km南北約39kmの範囲に広がり、面積は624.32Km²であり、海、山、平野、川、湖と多彩な地勢を有しています。

「神話の国 出雲」として全国に知られるとともに、出雲大社、荒神谷遺跡、西谷墳墓群などの歴史、文化遺産と、日本海、宍道湖、斐伊川などの豊かな自然に恵まれた地域です。

また、斐伊川と神戸川に育まれた豊かな出雲平野が広がる農業生産力の高い地域であり、商業集積も進み、各産業が調和した地域です。同時に出雲縁結び空港、河下港、山陰自動車道と環日本海交流の機能も担える交通拠点でもあります。

本市の面積の約6割は森林が占めており、黒松を配した屋敷森である「築地松」が織りなす散居景観等は、出雲地方独特の景観を形作っています。また、海岸線等には、出雲神話の舞台となった「稲佐の浜」や「日御碕」の名で親しまれる夕日の絶景地もあり、「日が沈む聖地」として日本遺産にも認定されています。このような豊かな自然や文化を活かし、誰もが笑顔になれるまちを掲げてまちづくりを進めています。



島根県出雲市の森づくり



本市では、約3,700ヘクタールの市公有林について管理・経営を行っており、これまで保育事業を実施してきたところです。この森林のうち、多くの人工林が高齢級化しており、利用期が到来しています。また、荒廃が進行している森林や、二酸化炭素吸収能力が減衰していると考えられる森林もあり、森林の適正な管理が必要となっています。

以上のことから、本市では、利用期が到来している市公有林については、主伐再造林による木材生産を令和6年度から推進しています。また、森林の持つ公益的機能の発揮による環境保全、林業担い手育成、風水害発生防止、花粉対策等を目的とした主伐、再造林及び間伐についても取り組んでいく計画としております。

森とアースへのECO-プロジェクト 施業実績



- 【施業内容】 植栽、下刈り
- 【場 所】 出雲市大社町遙堪地内
- 【面 積】 5.2ha
- 【施業時期】 令和6年7月～令和7年1月



島根県出雲市長 飯塚 俊之

出雲市長からのメッセージ

出雲市の森林施策に対し「森とアースへのECO-プロジェクト」によりご支援いただきましたことを厚くお礼申し上げます。

林業振興・森林整備については、市産材の生産拡大と利用促進を図り「伐って、使って、植えて、育てる」循環型林業の実現を目指しています。

また、ここ数年の豪雨災害では、土砂災害、風倒木被害など甚大な被害を受けたことからあらためて森林整備の重要性を痛感しています。このような水源の涵養、土砂の流出の防止や森林が持つ二酸化炭素吸収など森林の公益的機能が発揮できるような森づくりを推進し災害に強いまちづくりに取り組んでまいります。



さ せ ぼ し 長崎県佐世保市

本市は、長崎県北部のほぼ中央に位置し、面積426km²で東は国見山系を境にして佐賀県及び東彼杵郡波佐見町、北は松浦市、平戸市に接し、南は弘法岳山系を境にして川棚町と接しています。中央部には烏帽子岳、弓張岳、隠居岳などがあり、その流域にはダムも多数存在しており、西部には九十九島も控え、西海国立公園の名所として名高い景勝地となっています。

本市の地理的歴史的特徴として、国内有数の良港である佐世保湾を中心として古くから造船や軍港の町として栄えており、現在も自衛隊の基地や米軍の基地があることから、多くの自衛隊及び米軍関係者の方々が来市されています。さらに近年はクルーズ船の寄港誘致も積極的に実施しており、毎年多くの海外の観光客の皆様方が来市されています。

反面、本市の人口は平成の大合併で一時は26万人を突破しましたが、それ以降減少を続けており、「人口減少対策」が最重要課題となっていることから、対策として子育て支援・教育を重点的に取り組む必要があります。また、文化・スポーツの力で自由で心豊かな市民生活の実現を目指す「文化スポーツの政策」やまちの魅力を高め、若者の定着、定住人口の増加を図る「魅力ある持続可能な地域づくり」を新たな取組として位置づけ、様々な政策・施策に取り組んでいるところです。

これらの政策・施策の実施とともに、本市が持つ多様な地域資源を活用し、地域への誇りと愛着の醸成や、市の魅力度・認知度向上等を図ることで、市民の皆様からは「住み続けたい」、市外の皆様からは「住んでみたい」「訪れてみたい」と感じてもらえるような「選ばれるまちSASEBO」の実現を目指してまいります。



長崎県佐世保市の森づくり



本市の森林面積は、20,778haで、森林率は約49%となっています。このうち民有林面積が19,565haで、うちスギヒノキ等の人工林が8,121haとなっており、民有林における人工林率は、約41%となっています。

本市では、水源涵養や国土保全、風致維持、木材生産等森林の持つ多面的機能に配慮したゾーニングを行い、森林資源の維持向上を目指すとともに、個人有林の整備については国県の補助に加え、市単独で追加の補助を実施していますが、林業の採算性の低下や後継者不足により、現状森林の多面的機能の維持が危ぶまれている状況です。

今後、森林の持つ多面的機能の維持向上と森林資源の利活用を図るため、現在の森林整備や担い手に対する補助及び資金貸付に加え、バイオマス燃料の利用についての検討やグリーンカーボンの導入を計画していく予定です。

森とアースへのECO-プロジェクト 施業実績



【施業内容】 植林、下刈

【場 所】 佐世保市小佐々町矢岳

【面 積】 5.29ha

【施業時期】 令和6年7月～8月



長崎県佐世保市長 宮島 大典

佐世保市長からのメッセージ

この度は、佐世保市の森林施策に対し、「森とアースへのECOプロジェクト」によりますご支援を賜り、誠にありがとうございます。

近年は、大雨による災害が毎年のように全国で発生していることや、二酸化炭素排出量増大に伴う地球温暖化が進んでいることから、災害の防止や二酸化炭素の吸収といった森林の持つ多面的機能に市民からの期待が高まっております。

本市としましては、木材生産以外にも多くの機能を有する森林の機能の維持向上を図るため、市内森林の整備に対する補助金の支出や資金の貸付、グリーンカーボンの導入等様々な施策を実施してまいりますので、今後とも佐世保市の森林施策についてご協力をいただきますようお願い申し上げます。

天星製油株式会社

所在地	静岡県浜松市浜名区新原3833-1
TEL	053-586-9911
FAX	053-586-9915
URL	http://www.tenboshi.com/

令和6年度 全国オイルリサイクル協同組合 森とアースへのECO-プロジェクト推進チーム 構成員

環境開発工業株式会社、日重環境株式会社、木幡興業株式会社
株式会社TOAシブル、株式会社和光サービス、株式会社朝田商会
株式会社太陽油化、株式会社パンオイルサービス、岐阜鉱油株式会社
天星製油株式会社、岩谷化学工業株式会社、株式会社サンエム、山陰興業株式会社
株式会社フチガミ、有限会社森商会、全国オイルリサイクル協同組合

本プロジェクトの推進を通して、
持続可能な開発目標(SDGs)への貢献にも寄与しています。



森とアースへのECO-プロジェクト事務局

公益財団法人北海道環境財団
北海道札幌市中央区北4条西4丁目1番地 伊藤・加藤ビル4階
TEL:011-218-7811 FAX:011-218-7812

プロジェクトHP



<https://www.heco-spc.or.jp/mori-earth/>